

《原 著》

バセドウ病に対する外来放射性ヨード治療： 安全性および短期治療成績について

田 尻 淳 一*

要旨〔目的〕バセドウ病に対する外来放射性ヨード治療の安全性および短期治療成績について検討すること。〔方法〕1999年7月から2002年4月までに当院外来で放射性ヨード治療を受けたバセドウ病患者のうち2003年4月末まで経過を追うことができた438人を対象とした。内訳は男性100人、女性338人、年齢は 44.6 ± 15.4 歳(平均値 \pm 標準偏差)(14–82歳)である。放射性ヨード治療前の甲状腺重量は 32.0 ± 23.3 g(3.8–189.5g)であった。放射性ヨード摂取率(3時間値)と超音波による甲状腺重量から ^{131}I 投与量を決めた。初回投与量は 6.7 ± 3.3 mCi(1.2–13.5 mCi)で、治療5ヶ月後に2回目の放射性ヨード治療を行うかどうかを決めた。〔結果〕外来放射性ヨード治療後、甲状腺クリーゼや甲状腺中毒症の悪化による合併症を起こした症例は1例もなかった。治療後12–45ヶ月(30.1 ± 9.3 ヶ月)経って、甲状腺機能亢進症7例(1.6%)、潜在性甲状腺機能亢進症78例(17.8%)、甲状腺機能正常108例(24.7%)、潜在性甲状腺機能低下症116例(26.5%)、甲状腺機能低下症129例(29.4%)であった。〔結論〕バセドウ病に対する外来放射性ヨード治療は安全であり、短期治療成績も良好であった。

(核医学 42: 115–122, 2005)